

異常気象に備え、健苗育成を徹底しましょう！！

1 育苗作業計画

- 移植日から逆算して作業計画をたて、は種(浸種)時期が早すぎないように注意しましょう(表1)
- コシヒカリは早期出穂を避けるため平坦地では5月10日以降に移植することとし、は種は4月20日以降となるよう計画しましょう。
- は種(浸種)時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育不良、生育の後ずれにつながります。(図1)

【表1】 コシヒカリの育苗スケジュールの例(平坦地・稚苗育苗の場合)

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
加温出芽ハウス	4/15~	4/25~	4/27	4/27~	4/29~	5/2~	5/15
無加温出芽ハウス	4/13~	4/23~	4/25	4/25~	4/29~	5/2~	
加温出芽露地プール	4/13~	4/23~	4/25	4/25~	4/27~	4/30~	

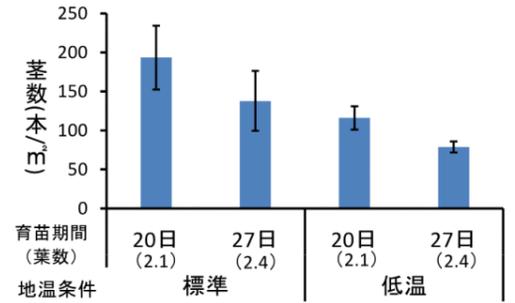


図1 稚苗の育苗期間が初期分けつが発生に及ぼす影響 (移植20日後 作研センター)

2 種子予措・は種作業・育苗管理

(1) 種子予措と留意点

予措	留意点
種子消毒	温湯消毒の単独処理では防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬との体系防除を実施を励行。
浸種	水温は10℃~15℃で積算水温100℃がめやすで、特に、浸種初日の水温が10℃より低くならないよう注意。
催芽	温度は30℃、1~2日をめやすに実施。もち品種は発芽しやすいため、芽の伸ばしすぎに注意。鳩胸状態の籾が80%程度となったら催芽を終了

※ 令和6年は種用(5年産)種子は、コシヒカリを中心に休眠が深いと推定されています。(県作物研究センター)例年以上に十分な浸種と適正な温度管理を心がけましょう。

(2) は種作業

厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。
育苗様式に合わせては種量を調整しましょう(表2)。

【表2】 一箱当たりのは種量のめやす

主な品種	区分	乾籾 (g)	催芽籾 (g)
コシヒカリ	稚苗	130~140	160~175
こしいぶき	中苗	80~100	100~125
つきあかり	稚苗	145~155	175~190
みずほの輝き	中苗	90~110	110~135

(3) 育苗管理

時期	目指す苗姿	管理方法	
		ハウス育苗	露地プール育苗
出芽期 (2~3日間)	出芽終了時 出芽長1cm程度 	【加温】 30℃設定 【無加温】 昼30℃ 夜15℃以上	・稚苗加温出芽の場合は30℃で2~3日程度加温し、出芽長を0.5~1cm程度に抑える。 ・中苗加温出芽の場合は30℃で1~2日程度加温し、出芽長を0.5cm未満にする。 ・露地プール育苗での無加温出芽は、低温により出芽が不安定になりやすいため、気温が安定する4月20日以降には種を行う。
		・ハウスの無加温出芽は、出芽まで5~7日程度を要する。 ・低温時保温するなど、温度確保に努める。	・出芽直後の苗は急激な気温の変化や強光に弱いため、緑化完了までは被覆資材で遮光する。 ・床土が乾燥している場合は、床土の温度低下を避けるため、午前中の早い時間にかん水する。 ・第1葉鞘長が稚苗で3.5cm、中苗で2.5~3cmになったら被覆資材をはがし、緑化を終了する。
緑化期 (2~4日間)	緑化終了時 第一葉鞘長3.5cm程度 	・ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうときは、積極的に換気を行い、ヤケ苗の発生を防止する。	・ミラシートやワリフなどを組み合わせて二重に被覆し、保温に努める。 ・高温が予想される日中は、遮光しながら必要に応じて除覆する。
		・除覆後は日中にハウスを開放し、苗を徐々に外気にならす(霜注意報の発令等、10℃以下の低温が予想される場合は被覆し保温)。 ・換気を十分にいき、田植え5~10日前からは夜間もハウスを開放する。 ・硬化期前半は1日1回、午前中に十分かん水し、後半は乾燥程度を見ながら1日1~2回かん水するが、夕方は避ける。	・葉齢が1~1.2葉になったころから湛水を始め、開始時の水位は床土面までとし、その後水位が1cm程度になったら苗丈の半分くらいになるまで徐々に水位を上げる。 ・田植え2~3日前に落水する。
硬化期 (13日間程度)	硬化終了時 葉齢: 2葉 苗丈: 12cm 第一葉鞘長3.5~4cm 	・活着を早めるため、田植え4~5日前頃(稚苗で1.8葉頃)に窒素成分で1~2g/箱を追肥する。 ・追肥後は、肥料焼けを防止するため必ずかん水する。	

※ 近年、育苗初期の高温により苗ヤケの発生が多く見られるため、被覆資材の選定に注意するとともに、朝から好天の日はハウス内及び育苗箱表面の温度をこまめに確認し、必要に応じて換気や除覆を行ってください。

※ 露地育苗で降雨後に被覆資材の上に雨水が溜まった場合は、レンズ効果による苗ヤケを防止するため直ちに排水を行ってください。